

第3回 学校運営協議会議事録

日時：令和8年2月24日(火) 16:15～17:10

場所：本校校長室

出席者：委員 森田 英嗣（大阪教育大学教授）
竹村 伍郎（NPO法人 まち・すまいづくり 理事長）
山崎 晃昭（近畿大学）
新崎 国広（ふくとし教育の実践研究所 SOLA 主宰）
古門 真一（同窓会副会長）
山崎 希正（大阪府立高津高等学校 PTA会長）
事務局 寺本 圭一（校長）、島 和広（教頭）
前川 紘紀（首席）、中原 章太（首席）、井濱 友輔（首席）
尾崎知佐子（企画広報部長）、二階堂 泰樹（進路指導部長）
菅 康之（書記）

1. 学校長あいさつ

1,2年生は学年末考査、3年生は明日から国公立大前期入試という時期である。また、現時点の本校の来年度入学志願者の希望数は609名（1.69倍）と昨年より100名近く増加している。

2. 学校からの説明事項

① 大学入試状況について（進路指導部部長より説明）

- ・ 共通テストは昨年と比べ、難化したといわれているように、本校においても平均点は、文系727(767)点、理系756(698)点 <*()内は昨年度>であった。また、8割以上の高得点の生徒数は34名(11.3%)で、寧ろ、中間層の生徒が多く、GLHS10校の中で平均点が低いというわけではない。
- ・ 志願状況については京大・阪大・神大の志願者数は順に、22(15)、55(57)、82(87) <*()内は昨年度>で、京大が20名を超えたが、今後もこれを維持していきたい。神大が若干減っているが、これは大阪公立大を志望する生徒が、学力上位・下位層から増えていることも一つの要因である。国公立大志望者数の総数は例年とほぼ変わらない状況である。
- ・ 国公立大の推薦入試についていわゆる特別枠の推薦では京大が今回から始めた女子枠で1名、他で1名、阪大で1名合格し、公募枠推薦では7名合格している。合格した生徒たちは共通テストの点数も高く、課題研究等の実績というより、成績上位者が合格しているように思われる。

② 令和7年度「学校経営計画」の達成状況について（校長より説明）

1 (1) 「生徒の持つ学力を最大限に引き出す」について

- ・ 教職員向け学校教育自己診断の質問事項「更なる指導技術の向上」の肯定率が92%と昨年同様高い比率となった。
- ・ 語学交流事業 GULS に35名参加し、満足度アンケートが100%であった。

(2) 「生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探求心を高める」について

- ・屋久島・種子島サイエンスツアーは 35 名参加した。悪天候のため種子島に渡れず、日程を 1 日延長し、帰阪は深夜になったが、困難な条件のもとで充実した研修を行った。

(3) 「進路指導の更なる充実」について

- ・ 2 年生の課題研究の満足度が 80%以上を継続して達成している。
- ・ 大学や企業・研究機関との連携による創造探求事業への生徒の参加数は 12 月時点で延べ 1,400 名を超え、年度末までには 1,500 名に達する見込みである。GLHS 審議委員からも高い評価を得ている。

2 (2) 「自主的活動と規律・規範意識の向上」について

- ・ 部活動加入率は若干下がってはいるが、高津キャラバン隊（ボランティア活動）の参加率は 100%で生徒の満足度も高い。
- ・ 遅刻件数は 1765 件と昨年の 1,897 件よりは少なくなっているが、今後も減少するように努める。

3 (3) 「教員の資質向上とミドルリーダーの育成」について

- ・ 教職員向け学校教育自己診断の質問事項「ミドルリーダーの育成に関する肯定率」が若干前年より下がっているが、今後はもっと、教職員に理解してもらえるよう「見える化」を進める。

③ 各種事業について

- ・ SSH における普及の取組として、小中学生対象 KOZU Science Labo 研究交流会を実施し、計 78 名が参加した。
高津高校の魅力を知ってもらうことによって数年後の入学を期待している。
- ・ SSH 第IV期中間ヒアリングも終了した。和やかな雰囲気の中で行われ、厳しい意見は聞かれなかった。

④ 令和 8 年度「学校経営計画」(案)について

- ・ 基本的に令和 7 年度「学校経営計画」を踏襲し、目標数値を改訂する方向で作成した。
- ・ 「働き方改革」の推進については年間時間外在校時間 720 時間を超える教職員が昨年度 6 名、現在 7 名いるので、この人数をゼロにすることを追記した。

3. 質疑応答・討議等

委員：高津高校志願者数が増加したことはうれしく思う。これも教職員のおかげだと思う。

委員：「ミドルリーダーの育成に関する肯定率」とはどういう意味か。

校長：学校がミドルリーダー育成のためどのような取り組みをしているかという意味で、次期委員長等への声掛け等しているが、教職員全体に見える形には至っていないという評価と受け止めている。

委員：2 年生の課題研究満足度が 80%以上達成しているのので、9 割をめざしてもいいのではないか。

校長：それぞれの期の 1 年次の満足度はかなり差があり、そこから 2 年次にどれだけ上がったかの数

値なので、単純に比較するのが難しい面もある。

委員：遅刻者数も学校の指標になる。精神的な理由などによる場合は、ソーシャルワーカー（S.W）の対応とかも必要になってくると思われる。

教員：S.Wによる対応や、オンライン授業も行い36単位までは認めるなどの制度もある。

委員：大阪府のS.Wの支援は少ないのではないか。

教員：現在S.Wはエンパワメントハイスクールなどの拠点校に配置され、そこから周辺校を廻る形になっており、どうしても拠点校以外の高校は少なくなってしまう。

委員：高校無償化によって受験低年齢化が進み、私学は小・中学生はもちろん、幼児・0歳児まで視野に入れ受験志向型の対策をとっている。高津高校を希望する生徒の層はこれとは異なる探究志向型と思われるが、どう対応していくのか。

教員：やはり、中学生からではおそいので、KOZU Science Labo 研究交流会など小学生にも高津の魅力を発信している。

委員：公立校志望者数が減っている中で1.69倍となっているのは、高津のクリエイティブ・ラボ等をはじめ色々な学び方が認められているからではないか。

委員：先生方の努力に敬意を表します。

委員：年間時間外在校時間720時間を超える教職員をゼロにする具体策はあるのか。

校長：該当者に個々に対応するしかないが、それぞれの先生方は昨年より時間外在校時間は減っているので改善はされつつある。

委員：進学実績や学力に関することだけでなく、引きこもりや生き辛さを感じている生徒への対策も学校運営協議会資料に記載してほしい。

委員：生徒だけでなく教員も転勤によって、学校の目標の違いから戸惑い、悩んでいる方もおられるので、そういう方への対応も考えてほしい。

委員：高津OBに高津が今どんなことをしているかを話すと、その多岐にわたる内容と多さにみんな驚いている。OBが関わるクリエイティブ・ラボでは、グローバル・志・感性をみかくことを意識して行ってきたが、直近では、最近の生徒の繊細な心に対するケアを心掛けた内容で行われた。

委員：来年度からは自転車についても法律が厳しくなるので、雨の日のカッパやヘルメットの置き場所など自転車通学に対する指導等で学校の負担が増えるのではないか。また、雨の日のカッパの着脱等で遅刻者が増えたりもするのでは。

教員：2年前から、自転車通学希望者はカッパを見せてもらったうえで許可証にあたるシールを渡している。遅刻の理由の約8割は体調不良で、それはスマホの使い過ぎや、宿題などやることの多さが原因のことが多い。

校長：メンタル的にしんどい生徒に対しては支援教育委員会やケース会議など、本年度18回開催していて、不登校生徒等、多様な学習ニーズに応じたガイドラインを他校に先立って作成している。また、S.CやS.Wとも協力して対応している。ただ、その分先生方の負担も増えている。学校運営協議員の皆様には、今年度もご協力いただき、ありがとうございました。